



Japan International
Association of
Lighting Designers

2022

IALD
JAPAN

ANNUAL
REPORT

Vol.08

一般社団法人
日本国際照明デザイナーズ協会
アニュアルレポート



Japan International
Association of
Lighting Designers

2022

IALD JAPAN

ANNUAL REPORT

Vol.08

一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会
アニュアルレポート

[2022年1月—2022年12月]



◀ IALD Japan のWEBサイト上で
ANNUAL REPORTのPDF版を
ご覧いただけます。

CHAPTER 01 協会挨拶	1-1	代表理事挨拶	04
	1-2	協会設立の目的	04
CHAPTER 02 活動報告	2-1	総会	06
	2-2	イベント Chase the Dark 2022	08
	2-3	第8回 WEBINAR 「がんばれ!住宅照明」	10
	2-4	第9回 WEBINAR 「舞台・建築、同じ照明だけど、どこが同じでどこが違う?」	12
	2-5	第10回 WEBINAR 「What is WBS? ~ WELL ってなに?」	14
	2-6	のぞいてみよう!照明デザイン vol.4	16
	2-7	コミュニケーションバー InaBar	18
	2-8	「Enlighten Asia 2023 in Japan」開催告知	20
CHAPTER 03 組織運営	3-1	委員会の概要と設置の目的	22
	3-2	IALD Japan メンバーリスト	23
	3-3	IALD Japan News	26
	3-4	About IALD Japan	27
	3-5	世界のIALDメンバー	28
	3-6	入会案内	30
	3-7	第9期に向けて	31
	3-8	協賛企業	32

CHAPTER 01

協会挨拶

1-1	代表理事挨拶	04
1-2	協会設立の目的	04

1-1 代表理事挨拶

2010年の発足当時、国際照明デザイナーズ協会よりプロフェッショナルな会員として認められていたメンバーはわずか16名でしたが、2014年9月の一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会(IALD Japan)設立を経て、2022年12月現在では100名に近い会員数になろうとしています。

いま照明デザインへの関心は、日本国内にとどまらず世界の各地で広がりを見せています。コロナ下で直接的な交流が制限されている中、9月にはEnlighten Americas 2022がバームスプリングスで再開されました。2023年に開催を予定しているEnlighten Asia 2023 in Japanがリアル再開できるかは不透明ですが、現在、総力を挙げて準備を進めているところです。

みなさまのお力添えが大きな後押しになることは言うまでもありません。

光の重要性が広く認識されてきた今日、私たちはこれまで以上に環境に配慮した照明デザインを志向するとともに、次世代を担う照明デザイナーの育成に力を注ぎ、照明の分野の発展に努めてまいります。

今後とも、よろしくお願い申し上げます。

一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会
代表理事 近田 玲子 Reiko Chikada

近田玲子

1-2 協会設立の目的

本協会は、日本並びに国際社会とのコミュニケーションを促進し、照明デザイナーの地位の向上を図り、光のデザインを通じて社会と文化の発展に寄与することを目的とします。

設立の目的を達成するために、次の事業を推進します。

1. 照明デザインの理念・役割・技術の研究と情報発信
2. 照明デザイナーの質的向上と育成のための研究・教育・広報事業
3. 照明に関係する機関・学会・団体等との連携および協力
4. 海外関係機関・団体等との交流および協力
5. その他本協会の目的を達成するために必要な事業

CHAPTER 02

活動報告

2-1	総会		06
2-2	イベント	Chase the Dark 2022	08
2-3		第8回 WEBINAR「がんばれ！住宅照明」	10
2-4		第9回 WEBINAR 「舞台・建築、同じ照明だけど、どこが同じでどこが違う？」	12
2-5		第10回 WEBINAR 「What is WBS? ～WELLってなに？」	14
2-6		のぞいてみよう！照明デザイン vol.4	16
2-7		コミュニケーションバー InaBar	18
2-8		「Enlighten Asia 2023 in Japan」開催告知	20

2-1 総会

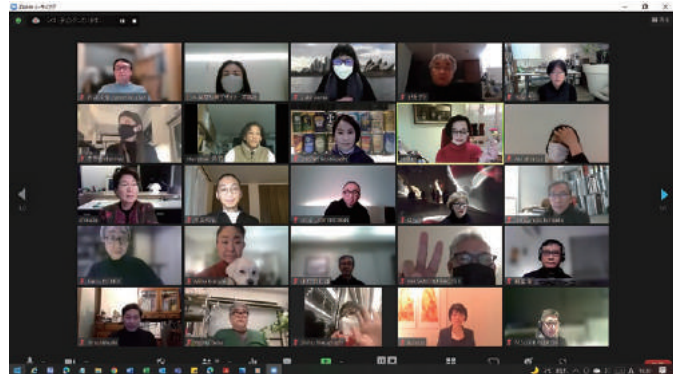
一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会 (IALD Japan) では、第8期に全3回の総会を開催し、各総会では以下の案件が決議・検討・報告されました。楽しんで参加していただける総会にするため、各界の第一線で活躍されている方から協会へのビデオメッセージを用意するなど新しい企画も取り入れました。

<第8期定時総会>

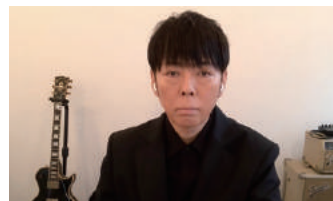
- ・ 第7期事業決算報告と承認
- ・ 第8期事業予算案報告と承認
- ・ 理事改選：第8～9期の理事の任命
- ・ Enlighten Asia 2021 in Japan 特設サイトについての説明
- ・ 第6回、第7回 WEBINAR 開催結果報告
- ・ Webサイト学生向けページ開設案の報告

<第8期第1回臨時総会>

- ・ 委員会組織編成見直し内容の報告
- ・ リージョナルコーディネーター退任報告と後任者の任命
- ・ Enlighten Asia 2021 in Japan 開催結果報告
- ・ 会員向け新イベント企画提案に関する協議
- ・ クリエイティブディレクター、アートディレクター、グラフィックデザイナー 佐藤可士和氏から協会へのビデオメッセージ



第8期第1回臨時総会



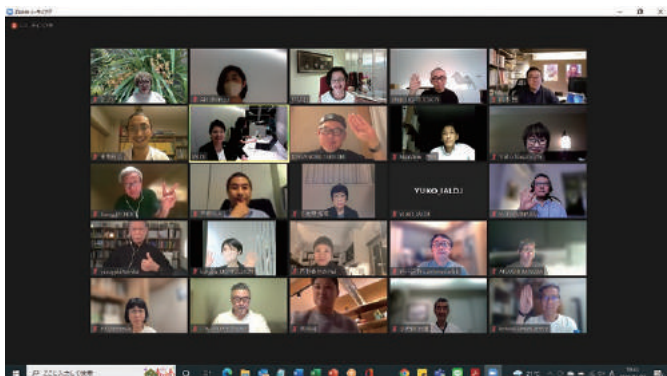
佐藤可士和氏からのビデオメッセージ

佐藤可士和氏
クリエイティブディレクター、アートディレクター、
グラフィックデザイナー
株式会社SAMURAI 代表取締役

2000年に独立し、クリエイティブスタジオ株式会社SAMURAIを設立。ブランド戦略のトータルプロデューサーとして、コンセプトの構築からコミュニケーション計画の設計、ビジュアル開発まで、強力なクリエイティビティによる一気通貫した仕事は、多方面より高い評価を得ている。

< 第8期第2回臨時総会 >

- ・ IALD本部President及び新CEOからの報告と挨拶
- ・ 外部向け有料イベント企画に関する協議
- ・ アニュアルレポートWeb化に向けての検討
- ・ Chase the Dark 2022開催結果報告
- ・ Enlighten Asia 2023 in Japan開催決定の報告
- ・ グラフィックデザイナー廣村正彰氏から協会へのビデオメッセージ



第8期第2回臨時総会



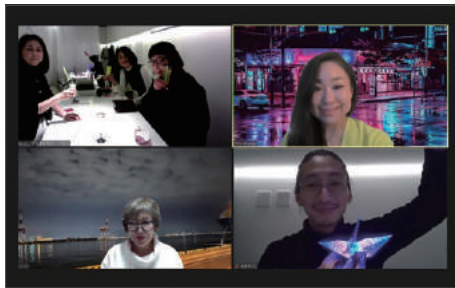
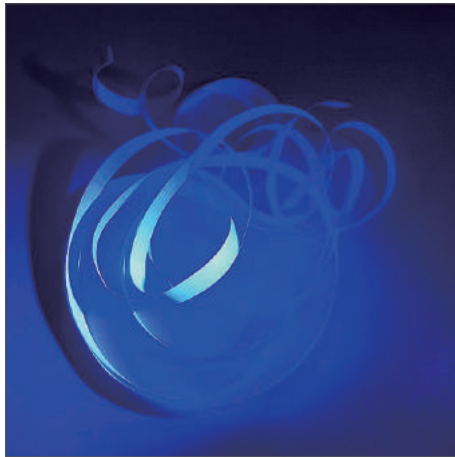
廣村正彰氏からのビデオメッセージ

廣村正彰氏
グラフィックデザイナー
廣村デザイン事務所 代表

田中一光デザイン室を経て、1988年、廣村デザイン事務所設立。グラフィックデザインを中心に、美術館や商業、教育施設などのCI、VI計画、サインデザインを手がけている。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のスポーツビクトグラム開発に携わる。

一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会
第8期総会開催スケジュール

2021年10月8日 定時総会	オンライン開催
2022年1月21日 第1回臨時総会	オンライン開催
2022年5月27日 第2回臨時総会	オンライン開催



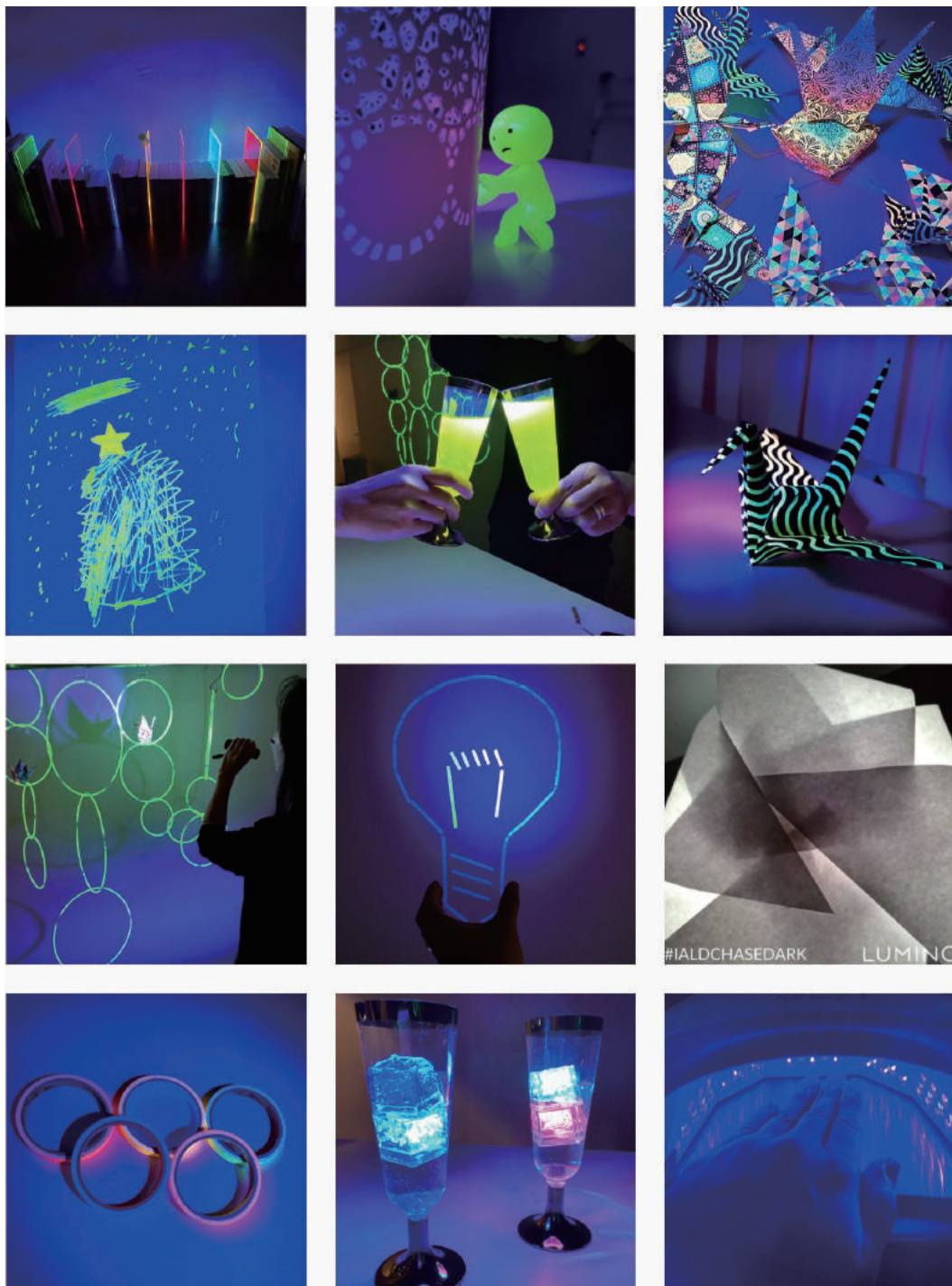
2-2 Event [イベント]

Chase the Dark 2022

2022年度の「Chase the Dark」は一昨年、昨年と、日本ではCOVID-19パンデミックの緊急事態宣言は解除されたものの、国内の特定地域において蔓延防止措置が取られる中での実施となりました。「Chase the Dark」イベントはオーストラリアから西廻りで世界各都市のサンセットの時刻に、その年のテーマに沿って撮った光の写真や短い動画をInstagramにアップしていき、世界を光で繋ぐという企画です。パンデミック以前は、世界各地のIALD関係者が各国内でオフラインイベントが行われ、その様子をSNSを通じて窺い知ることができました。しかし、昨年は各々の国内であってもオフラインイベントができず、イベントの国内開催方法もオンラインへと移行していきました。今年は、日本国内においてもIALD Japan事務局内にて、感染予防措置に十分に配慮し人数を制限して開催、また会場参加できない参加者はオンライン参加で、イベントを開催しました。

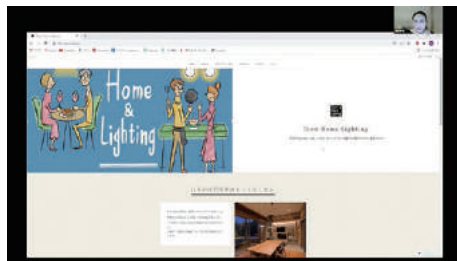
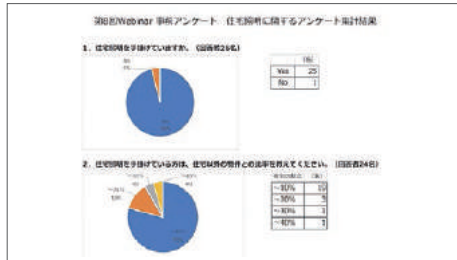
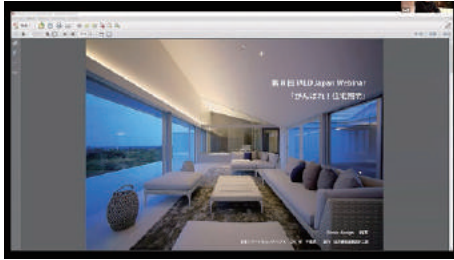
2022年のテーマは 'Only use light where you need it' でUVライトやフラッシュライトに反応する媒体を利用して、非日常の光を各国のIALD関係者が思い思いに発信しました。日本からは、UVトナーで作られたブラックライトで光る蛍光折り紙で折り鶴を作ったり、100円ショップでも購入できるパーティー用の光る腕輪を壁に裝飾したり、ジェルネイルで発光するネイルの写真など、暗闇を楽しむグッズが沢山あることを再認識しました。そして、ブラックライトで光る飲料水と共に暗闇に浮かぶ幻想的な乾杯をしました。英国ではノーマスクでオフラインイベントが開催され、ブラックライトで光る蛍光ペンで描かれた絵画の写真がアップされました。メキシコからは空間の中でDJが奏でるリズムカルなサウンドがブラックライトと同調する動画がアップされていました。早くも脱COVID-19の日常を回復している姿を、アップされた写真から窺い知ることができ、来年こそは日本でもリアルイベントを開催したいと思いました。

IALDはグローバルな組織団体で、世界各地の支部の交流はオンライン・オフライン共に活発に実施されてきました。COVID-19はそんな日常に影を落としましたが、一方で照明デザイナー集団らしく、それはそれでいかに「光」で世界を繋げるか創意工夫をしてコミュニケーションを育む組織であることを改めて実感しました。現在では、一部の国ではマスク着用の義務化が廃止され、マスク無しの人々の表情に向き合える状況になっています。日本も近い将来、そんな状況に回復できるよう期待しつつ、これからも光が国境を越えるように、海外のメンバーとのコミュニケーションを継続していきたいと感じました。



2-2

日時 2022年3月24日
場所 #ialdchasedark
(IALD Japan事務局とオンラインのハイブリッド開催)
主催 IALD



2-3 Event [イベント]

第8回 WEBINAR「がんばれ!住宅照明」

照明デザインの業界でもあまりテーマとして語られることの少ない「住宅照明」について、照明デザイナーはどのように考えているのか？それを明らかにするべく、2022年3月4日のWEBINARは「がんばれ!住宅照明」をテーマに、菅原千穂氏(フィラメント)がモデレーターを務め、パネリストに岡本賢氏(Ripple design)、小山憲太郎氏(コヤマケンタロウデザイン事務所)、福多佳子氏(中島龍興照明デザイン研究所)をお招きして開催しました。

まずは各々の住宅照明への取り組みや事例について軽くお話しいただいた後、事前実施したアンケート結果を発表。ほとんどの照明デザイナーは住宅照明を手がけた経験があること、主に設計事務所経由の依頼であること、ただ、住宅照明の割合は請け負っている照明デザイン業務全体の10%程度と回答した人が最も多く、その比率が低いこともわかりました。

さらに、住宅照明を手がけることについては「住宅照明は重要だが、ビジネスとしては割に合わない」という回答が最も多い結果に。ここで、アンケートに長文の回答を書かれた松本浩作氏(有限会社スタイルマテック)にも登場していただきました。

松本氏は「施主の明るさ感覚や生活スタイルなどを把握して設計する必要がある」という“大きな手間”と、「完成まで約1年かかるが、報酬は50万円が限界」という“利益が出ないビジネス”の実情を明かしました。

ネガティブな意見が多い一方で、最も身近な照明であることから、その重要性は認識されています。福多氏は照明効果を理解してもらい難しさに触れつつも「住宅だけがまだ一室一灯照明であり、啓蒙を続けるべき」、小山氏も「住宅に明かりが灯ることで、街の明かりになる」と、夜間景観を含めた明かりに言及。岡本氏は「照明デザインを依頼する施主は熱心に勉強しているため、期待に応えたいという気持ちになる」と語りました。

次の議題は、住宅照明における失敗について。

アンケート結果を分析したところ、技術面の失敗、設計事務所とのコミュニケーションの失敗、施主とのコミュニケーションの失敗の3つに大別できることがわかりました。

パネリストからも、明るさの感覚は年齢による変化があり、それに伴って必要な照明も変わっていく等の課題が次々と挙がり、住宅ならではの難しさが浮き彫りになりました。

これらに対しては、住人が自分でランプを選んで替えられる口金タイプの照明器具にする、調光可能な照明にするなど、長期的な視点での提案がカギになるようです。

さらに、アンケートで印象深い回答があった角田尚法氏(maxview 株式会社)と東海林弘靖氏(LIGHTDESIGN INC.)からも直接ご意見をいただきました。

角田氏は、設計事務所に「照明の意図」を確実に伝えることの重要性を強調。施主の希望やコストの都合で壁紙や照明器具が変更され、意図していた照明効果が出ないという事態を防ぐため、被照射面の効果や輝度などを詳しく説明し、理解してもらえよう心がけているとのことでした。

東海林氏は、施主にこちらの思いやアイデアを押し付けてしまうリスクを感じ、「照明デザイナーの役割は一般の人々が照明の効果を知り、それを自分で実現できるようレシピを伝えることだ」という考えに至ったそうです。

ここで、2つの案が出ました。

ひとつは「住宅照明検定」の創設。正しい知識を学び、試験を経て資格を取得できる制度があれば、高い次元で照明の話ができる人が増えると期待できます。もうひとつは「住宅照明賞」をつくること。評価対象をアイデアやストーリーに絞り、照明デザインの幅の広さを競う機会は、照明デザイナーが自身の思考の癖から抜け出すキッカケになると考えられます。

終了時間が迫ったころ「ポジティブな話もしたい」と、岡本氏。「私は住宅照明をやったことで、照明器具の知識が増えた。住宅用の照明器具には工夫されたものがたくさんあり、施設照明にも応用できる。コストダウンのテクニックも上がった。住宅照明をやれば、照明デザインのスキルは間違いなく上がる。特に20~30代の若い世代の照明デザイナーにこのメリットを知っておいてほしい」。最後に菅原氏から、照明デザイナーが集まって住宅照明を盛り上げる活動を行う「Team Home Lighting」を立ち上げたことが報告され、今回のWEBINARは終了しました。

WEBINARに参加して感じたこと

私自身はこれまで住宅の照明デザインに関わる機会を比較的多くいただけてきました。住宅プロジェクト特有の問題点や悩みなど、自分の中だけに抱え込んでいましたが、自分以外の照明デザイナーも同じような想いで仕事に取り組んでいることがわかり、心強くなりました。半面、住宅の照明デザインのビジネスとしての難しさも改めて浮き彫りになったWEBINARだったと思います。それでも住宅の分野でも照明デザインの価値を高めることが、日本全体の照明や光に対する関心を高めることに繋がると信じて、今後も住宅照明に取り組んでいきたいと思えます。

岡本 賢

IALD Japanメンバーの多くの方が「住宅照明」の大切さは誰もがわかっていて、そして業務の手間と報酬とのバランスが取りにくい、ということも暗黙の了解ごとのような状態です。このままでは何か照明デザイナーとしての職務を放棄しているようなこの課題に対して、事前アンケートやご参加の皆さんからの、様々な意見や実施例などのコメントをいただけて、登壇者としても視聴参加された方にも、これからの取り組み方を考えるうえでの参考になるものだったのではないかと思います。

小山憲太郎

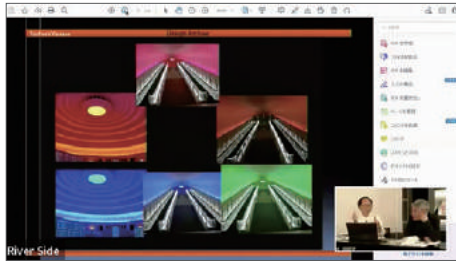
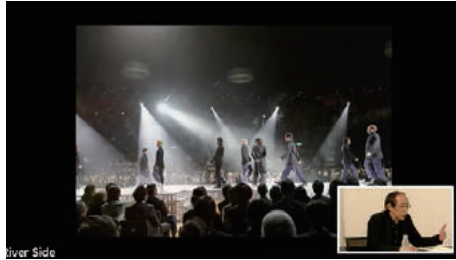
照明デザイナーにとって住宅照明の大切さは理解していながらも、いわゆる「割に合わない」という理由で、仕事としては難しいと考えている人が多いという現状が事前アンケートからわかりました。そのため前半はネガティブな話が多くなってしまいましたが、後半は住宅照明の重要さを広く認識してもらうために「住宅照明検定」や「住宅照明賞」をつくってはどうかなどのポジティブな意見もありました。住宅照明を盛り上げるためにできることはまだまだいろいろあると感じたセミナーでした。

菅原千稲

住宅照明をテーマにしたセミナー開催にあたって、希望も込めて「がんばれ!住宅照明」というタイトルを提案しました。その後の住宅照明はどうかという相変わらず依頼はいただけるものの、どこかにあるであろう住宅照明の向上を求める需要を開拓できないまま1年が経過しています。Team Home Lightingも志を共にする仲間が増え、気持ちだけは前向きになっています。住宅照明の向上によってその他の照明にも目が向けられることを願い、活動を続けていきたいと考えます。

福多佳子

日時	2022年3月4日
場所	IALD Japan WEBINAR(オンライン開催)
モデレーター	菅原千稲
パネリスト	岡本 賢、小山憲太郎、福多佳子
主催	IALD Japan



2-4 Event [イベント]

第9回 WEBINAR

「舞台・建築、同じ照明だけど、どこが同じでどこが違う?」

舞台照明と建築照明はともに光を扱う仕事ですが、どのような共通点、相違点があるのでしょうか。2022年6月17日のWEBINARは、その答えを見つけるべく開催されました。モデレーターは馬場美次氏(馬場美次デザイン室)と山下裕子氏(有限会社ワイ・ツー・ライティングデザイン)。ゲストは舞台照明を主に手がけている伊東啓一氏(エム・ジー・エス)、柳瀬敏実氏(東京舞台照明ホールディングス)の二人です。

モデレーターが自身とゲストについて簡単な紹介を行った後、伊東氏と柳瀬氏に、それぞれの事例について解説していただきました。

伊東氏が率いる株式会社エム・ジー・エスは、コンサートやファッションショー、美術展、イベントなどの照明オペレーションから建築物のライトアップまで、幅広い光のデザインや照明シーンを創り続けています。代々木第二体育館で行われたYOHJI YAMAMOTOのファッションショーでは、仮設照明としてピンスポットを20箇所だけ使用し、シーンごとに手で色を変えて全体的な照明効果を生み出しました。

東京都現代美術館で開催された石岡瑛子氏の展覧会では、入り口付近を深みのある赤色で染め上げた様子や、三島由紀夫の「金閣寺」の映画に登場する、真っ二つに割れた金閣寺を再現したセットにハレーションライトを当てて輝かせた事例が紹介されました。石岡瑛子氏デザインの衣装を纏ったパフォーマーの映像が壁面に大きく投影された空間では、その映像と同じ衣装を纏ったトルソーと一緒に展示されており、映像の光量とトルソーを照らす配光が絶妙なバランスに保たれることで「トルソーが映像から出てきた」と感じられるライティングを実現するなど、デリケートな照明技法が見られました。

「野村家三代狂言」では、東大寺そのものを舞台背景としてライトアップ。堂々たるライトアップシーンから、環境の暗闇を活用してシューティングポイントを狭くすることで東大寺を小さく見せるシーン、さらにピンクやイエローの光を用いた華やかなシーンなど、多彩な光景が生み出されていました。

柳瀬氏が率いる株式会社東京舞台照明ホールディングスは、日本の舞台照明のルーツのひとつであり、演劇やコンサート、展示会やテーマパークなどの照明に加えて、器材の販売やレンタルも行っています。

柳瀬氏はまず、オペラとコンサートの事例を紹介してくださいました。オペラでは舞台前のフットライトとLEDスポットをメインに、ムービングライトを1台用いて、シーンに沿った空間を創出していました。事例として紹介されたコンサートでは、ステージ上の円形パネルの背景セットに、楽曲に合わせて地球や月を投影。映像は照明側で用意し、球体に見えるようにテクニックを駆使するなど、さまざまな技法でス

テーゼライティング全体をコントロールしたそうです。

フィギュアスケートのショーでは、器材の湿気対策や、短時間で各スケーターの動きを把握して演出を組み上げなければならない等、特殊な環境下で行われる舞台照明の事例をご紹介します。大規模なスタジアムでの事例では、東京ドームで開催されるイベントは舞台・セットともに極めて大きいため、仮設照明に相当量の仕込みを必要とし、多くのポジション(演出、ステージ、音響、運営 etc…)の調整が必要となります。2013年の国体の開会式・閉会式でも、350台ものムービングライトをすべて有線で仕込み、調光卓も2卓用いて制御したそうです。

また、建築照明寄りの事例として、熱海にあるMOA美術館のエスカレーターのライトアップや、イベントと連動した名古屋のテレビ塔ライトアップ、武道館ライトアップの内容も紹介されました。

その後はディスカッションに移り、舞台照明と建築照明の違いを改めて議論しましたが、つまるところ、どの照明でも「常設か仮設かで大きな違いが生じる」という話に。

照明を仮設することが多い舞台照明では、置きたい場所に器材を設置し、自由に変更できるなど、制約が少ないことが特徴です。一方、照明器具を常設することが多い建築照明は、設計後は変更が難しく、動線上に設置できない、耐久性を求められるなど、あらゆる要素を考慮しなければなりません。

光で感動を生み出すという点では同じですが、舞台での感動は短時間で強烈に与えられるものであり、建築照明がもたらす空間体験の感動は何年もじわりと続いていくもの、という違いがあります。理想とする光を創り上げるまでのプロセスに異なる部分が多々あり、馬場氏からは「極端に言えば“対象物に光を当てる”以外の共通点はないのでは？」というコメントもありました。

しかし、近年サッカースタジアムでピッチを照らすスタジアム照明が水銀灯からLED照明に変わり、音楽に合わせてテンポ良く明滅する演出が可能になるなど、舞台照明と建築照明の融合を感じる瞬間も増えてきました。

舞台照明と建築照明が互いに近づけば、より良い光環境、新しい感動が生まれる。そんな希望を見出しつつ、今回のWEBINARを終えました。

WEBINARに参加して感じたこと

今回のWEBINARに進行側として参加して、この二つの照明デザインは異なる職種であるということを再認識しました。同じ光を扱っているのに似たもののように感じますが、目的や表現は全く異なるのではないかと感じています。要素の多い建築系照明に舞台系照明手法が含まれることもあり、「ひかり」として一纏めにされることがあるので、二つの位置関係が曖昧になっていて、全く違うデザイン職種だと思います。ただし、機材の技術面では近い業種であり、双方の技術が融合することで、新しい機材が生まれる可能性を感じました。

馬場美次

引き続きのコロナ禍でしたが、歴史ある舞台照明会社の代表のお二人をゲストに招いて、初のハイブリッド開催となりました。お題の「舞台と建築の照明の違いについて」は「結論を出さない」流れにして、両者のお仕事のご紹介からの始まりとなりました。私的には「そんなに違いがあるだろうか？」という立ち位置で臨み、貴重な意見交換はできたと感じますが、見解までは時間的にも及ばなかった反省点もあります。今後、深掘りができそうですねというアフタートークもいただき、忌憚のないトークショー的に継続できると良いと感じました。

山下裕子

日時 2022年6月17日
場所 IALD Japan WEBINAR(東京デザインセンターよりライブ配信)
モデレーター 馬場美次、山下裕子
パネリスト 伊東啓一、柳瀬敏実
主催 IALD Japan



日本国際照明デザイナーズ協会



日本国際照明デザイナーズ協会



日本国際照明デザイナーズ協会

3) WELL「光」の項目

評価コンセプト	必須項目	加点項目
 光 場所 光	1. 光曝露 2. ビジュアライゼーションデザイン	1. サーカディアン照明デザイン：照度均等化 4. 人工照明のグレア制御 5. 昼光の眩目軽減 6. 昼光のシミュレーション
 3. 健康促進 <small>健康促進に寄与する照明環境の提供、健康増進に寄与する照明環境の提供</small>	 4. 照明の可視性 <small>照明の可視性を確保し、視覚的負担を軽減する照明環境の提供</small>	 7. 自然光の活用 <small>自然光の活用による健康促進に寄与する照明環境の提供</small>
 8. 健康促進 <small>健康促進に寄与する照明環境の提供</small>	 10. 健康促進 <small>健康促進に寄与する照明環境の提供</small>	 11. 健康促進 <small>健康促進に寄与する照明環境の提供</small>

日本国際照明デザイナーズ協会

2-5 Event [イベント]

第10回 WEBINAR
「What is WBS? ~ WELLってなに?」

WBS (Well Building Standard)は2014年に開発された建築物の空間評価システムです。人間の健康にフォーカスした環境作りが推奨されていることが特徴であり、世界中のオフィスやホテル、商業施設から注目を集めています。WELLとは具体的に何なのか、照明デザイナーとしてWELL認証に寄与するにはどうすればいいのか。これらを紐解いていくことを目的に、WEBINARが開催されました。当日は会場である東京デザインセンタークラフテックギャラリーに聴講希望者を迎え、IALD Japan WEBINAR初のハイブリッド開催となりました。モデレーターは金田篤士氏(株式会社ワークテクト)と目黒朋美氏(トモロデザイン・メグロ株式会社)です。

まずWELLの10のコンセプト(空気、水、食物、光、運動、温熱快適性、音、材料、ところ、コミュニティ)、それからLEEDやCASBEEといった他の世界的な建築物認証システムが紹介され、世界のWELL認証を受けたオフィスの紹介動画が流されました。動画では、WELL認証を取得したオフィスが紹介され、その経営者がコメントをしているという内容で、金田氏、目黒氏は「現在の日本でここまで環境の良いオフィスは少ないが、今後このような方向性になっていくと予想される」と語られました。

次に参加者に対して、WELL認証を意識したオフィス作りをしているかという問いかけがありました。会場の照明デザイナーの方から、特にWELL認証は意識していないが、オフィスというよりも遊び場という感覚なので、必然的に居心地の良い空間になっているとの回答がありました。同じく会場参加の照明メーカーの方からは、自社のオフィスでは特にWELL認証などは取得していないが、WELL認証を取得したホテルのプロジェクトの照明制御に携わったというお話もいただきました。Web上のアンケートでは、WELL認証に携わった方が5名、携わったことのない方が22名という結果になりました。WELL認証を受けた建築物数世界ランキングで、日本は12位でした。アメリカがダントツで1位、中国が3位と意外に多い結果となりました。会場やWebでのアンケートからもわかるように、日本ではWBSはまだ広く普及しているとは言えない状況であり、WELL認証を取得しているプロジェクトの傾向としてはゼネコンや組織設計事務所の自社ビルが多いようです。

WELLの10のコンセプトのうち、「光」は110点中18点を割り当てられており「WELLの中でも照明が占める割合が多い」ことに金田氏が言及しました。18点の中で必須項目、加点項目に分かれており、必須項目が光曝露とビジュアル照明デザイン、加点項目がサーカディアン照明、人工照明グレア制御、昼光シミュレーションなど多岐に渡ります。更に、LEED、WELLコンサルが使用するというIWBIのリストを目黒氏が公

開され、「項目が細かくて驚いた。我々照明デザイナーは、必須項目はもちろん、加点項目を加味してデザインし、WELL認証に貢献していく必要がある」と述べられました。金田氏は「WELL認証はメーカーの製品ごとではなく、空間や建物に対して認可されるものであり、我々にはWELLに適した製品を選択できるかどうかが問われている」と今後照明デザイナーに求められる役割を示されました。ここで、会場参加の照明デザイナーから「WELL認証の項目には日本の照明デザイナーであれば当たり前でできている項目が多いのではないだろうか。底辺あげには適しているが日本では普及しづらいように感じる」という指摘がありました。これに対し金田氏は「ミシュランの星システムのようなもので、オーナーはわかりやすい指標を求めている。そういった要望が増えてきていることを認識していきたい」、会場参加の別の照明デザイナーは「オリンピックのメダルと同じで、わかりやすいメジャメントがあることでプロジェクトとしての目標が明確になる。日本におけるJIS規格の推奨値を駆逐するためにも普及されるべき」とコメント。日本において、WELL認証を普及する必要性について語られました。

次に目黒氏が、加点項目のうち特に注目すべきポイントについてピックアップされました。まずサーカディアン照明について。これは昼間にかけて4時間日光を浴びて身体を活性化し、夜間は逆に色温度を下げてメラトニン分泌を促進します。このようにして効率的に入眠しやすいよう、照明や日光の取り入れ方を工夫することで、サーカディアンを有効活用するというものです。この尺度として、目黒氏は等価メラノピク照度を紹介。これについて金田氏は等価メラノピク照度について調べたところ、カナダと台湾に研究施設があり、施設で実験的に研究されていることを述べられました。日光シミュレーションでは、コンピューターシミュレーションでの検証例が紹介されました。実際は東西南北や時間帯によって変化するため、検証例よりも深いことを問われるようです。

次に、目黒氏が個人的に専門家の話を伺いたいという「フリッカーを防ぐにはどうすればよいのか」という項目が紹介されました。フリッカーはLEDの明滅現象、モアレ現象のことであり、画面の激しい明滅によって体調不良を引き起こすことがあります。国際基準は3kHzですが、日本は100V/50～60Hzと、PWM形式を採用しているため基準が甘くなっているのが現状です。

ここで、会場にお招きした玉田邦夫氏(有限会社 タマ・テック・ラボ)に金田氏が見解を求めました。玉田氏は舞台照明やテレビ番組の照明を長年にわたって担当されたスペシャリストです。玉田氏は「テレビ局

では5kHz以上、最新の機器だと20kHz以上のもがある。PWMは制御が比較的容易だがフリッカーを引き起こすことがあるため、私は電流を変え、電圧を一定にするフリッカーフリーの専用電源を採用している。局は特にフリッカーに対して神経質なため、一般的にフリッカーフリーの電流制御が増えつつある」と説明されました。

最後に、GoogleのLEED認証のプラチナを受けたCAのオフィスを紹介した動画が流され、参加者は感想を求められました。目黒氏は「WELL認証は、デザイナーだけではなくプロジェクトに関わる様々な業種の方とのコラボレーションによって実現される。照明に於いては、メーカーの理解と協力をもって健康や福祉のテーマに向かって進んでいきたい」とコメント。金田氏は「世界の潮流として、WELLやLEEDといった基準を認識し、勉強、またそれを表現していく必要がある。照明のビジョン、未来を見据えて絵を描いていきたい」と締めくくられ、今回のWEBINARを終えました。

WEBINARに参加して感じたこと

今回は、世界的に話題になっている環境改善WELLが、今後私達の仕事にも影響してくることを想定してのテーマとしました。日本のプロジェクトではまだまだ意識されていない為に、照明に関する技術改革も世界から遅れているのでは？と思ったことから、今回WELLをテーマにして、会場に来ていただいた照明関係者がどのぐらいの意識を持っているかを議論してみました。WELLというガイドラインが発生したという状況は、私の持論としての「新たな産業革命の時代」だということを、照明関係者に気付いて欲しいと思いました。意識することで新たな技術が生まれ、そこに新たな商品が発明され、新たな環境を作り出す。これは、過去の時代にも繰り返されてきました。COVID-19の影響で、この数年間は世界的にも不況でした。ようやく世界の流通が正常に戻ってきます。その時代に取り残されないように日本の照明進化を願うばかりです。もう一度、照明王国日本を取り戻したいという思いから今回のテーマに取り組んでみました。

金田篤士

人間の福祉・健康・幸福に軸を置いたWELL認証システムは、認証を取得する、しなやかに関わらず、照明計画をする者、また照明機器を開発する方々にとって、一つの新たな物差しになるのではないかと考えます。COVID-19の状況下においても世界の専門家により着々と内容改善が行われ、既にWELL認証はVer.2となっています。今回のWEBINARでは、会場・WEB両方で参加型で開催させていただきました。特に新しい基準であるメラノピク照度やフリッカーレスな空間の実現などにフォーカスして理解を深めると共に、会場での議論を行い有意義な意見交換が活発に行われました。これからの時代は、照明もエネルギー一辺倒の評価から、福祉・健康・幸福にフォーカスした環境評価の流れが益々加速すると思われまます。それを実現する技術革新も必要となり停滞した業界をも動かす力となり得る可能性があります。我々照明デザイナーとしては基準や根拠を上手く利用しつつ、それぞれの個性を持って今後も活動することが、より豊かな照明環境を実現するものと考えています。

目黒朋美

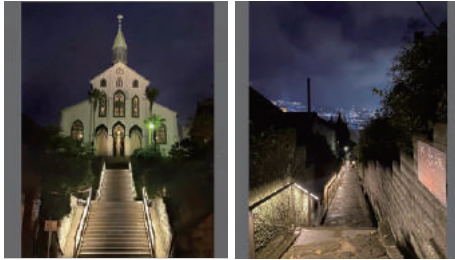
日時	2022年12月9日
場所	東京デザインセンター クラフトテックギャラリー + IALD Japan WEBINAR
モデレーター	金田篤士、目黒朋美
主催	IALD Japan

環境・空間におけるより良い光環境の創出
文庫府で自から生活環境、空間の価値や魅力、〇〇をいよ、人々とのつながり、環境の持続性

対象 都市環境、ランドスケープ、建築物、インテリア、アート、イベント、...

照明デザイナーは、建築家や事業主とのコラボレーションで、照明のスキルを駆使して空間作りに関わるプロフェッショナルです。

照明のスキル 光を知る・人を知る・理を知る・体験する



2-6 Event [イベント]

のぞいてみよう! 照明デザイン vol.4

照明デザインに興味を持つ学生に向けたイベントで、照明デザイナーの職能や仕事ぶりについて、実際に現場で活躍している照明デザイナーが様々なエピソードを交えて紹介します。

まずマワタリデザインの馬渡秀公さんは、照明デザイナーを「都市環境、ランドスケープ、建築物、インテリア、アート、イベントなどを対象とし、建築家や事業主とのコラボレーションで、照明のスキルを駆使して空間作りにかかわるプロフェッショナル」と定義しました。

続いて、株式会社 ライティング プランナーズ アソシエーツの中村美寿々さん、焰光景デザインの前田武敏さんの2名のパネリストからお話を伺いました。最初はフランス留学中にパリの夜景の美しさにひかれて照明デザイナーになったという中村さんです。携わった仕事の実例を挙げながら、現代に求められている照明デザインの役割、長崎市で都市全体の夜景デザインに関わった案件について詳しく教えてくださいました。現代の都市照明デザインには、環境への配慮の先に「その都市ならではの光、都市の個性を表現する都市照明が求められている」と指摘。長崎市の実例では、街並みの歴史などを伺いながらの現地調査と並行して夜の光環境の調査を行い、課題を抽出して、遠景と中・近景両方の視点から双方向的に夜間景観の向上に取り組むことを目指されたそうです。

次は、日本庭園や寺社仏閣などを、紅葉や桜のシーズンに仮設照明でライトアップされている前田武敏さんです。携わったライトアップの事例を紹介し、ライティングによる空間の見え方の変化、仮設照明で工夫している点について解説してくださいました。浜離宮恩賜庭園など同じ場所でも季節ごとに異なるライトアップの写真を紹介し、「仮設=光の多様性」として「光によって空間の印象はすっかり変わる」と指摘。また、旧古河庭園のライトアップを例に、それまでの大型の器具による投光照明ではなく、光量の小さい器具を使い、太陽に向かって咲くバラの花に対して、夜も同じように上からのダウンライティングの光でバラを浮かび上げさせ、背景となる周囲の木々に光を当てて奥行き感を出す——といった工夫によって、空間が劇的に変化する様子を示されました。

質問コーナーでは「照明器具を置くと、昼に訪れる人に見えてしまうが?」、「照明自体が主役になるときと、対象物を照らすライトアップとの使い分けで意識していることは?」といった学生からの質問に対して、パネリストたちは自身の考えや現場での経験を交えながら詳しく話してくださいました。

当日聴講された学生の皆様より届いた質問と登壇デザイナーの回答を抜粋してご紹介します。

Q1. 今後デザイナーに必要とされる能力を知りたいです。

A1. 気候変動やSDGs、ダイバーシティ、ソーシャルデザイン、シェアリングエコノミー、コロナパンデミック、日本では人口減少、などなど、現代の社会活動や価値観は様々な変化の中にあると感じます。未来に向けてデザインを発信し続けていくために、広い視野や柔軟な価値観、シームレスな活動領域を持つこと、様々なステークホルダーとの協働の中でデザインを実現していくための能力が必要だと思います。照明デザインに限っては、照明制御の進化が進んでいるので計画施設の運営を理解することが必要になると思います。(馬渡氏)

Q2. 電気の力を借りない自然光を利用した作品なども作っていますか？

A2. 太陽光の動きを追いかけて動く鏡を屋上などに設置し、建物内に積極的に太陽光を引き入れ利用する例や自然光を建物内に取り入れ、センサーと調光システムを使ってタイマーに人工照明のバランスを制御することなどはよく行われています。一方、最近のプロジェクトでは、LEDの高効率化により、自然光を取り入れて空調負荷を増やすより、ある程度遮光をして人工照明を増やす方が総エネルギー量を減らせるという事例があったそうです。

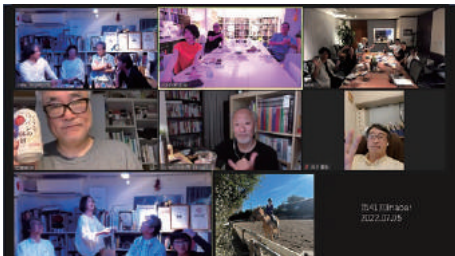
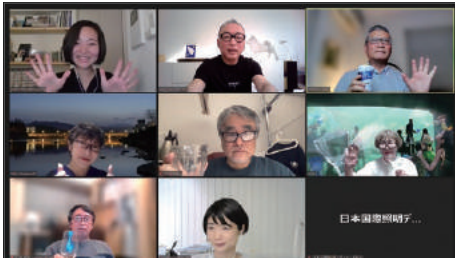
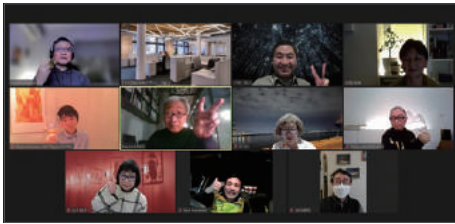
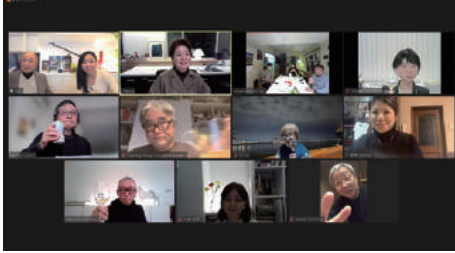
北欧の建築では、建築家たちがいかに太陽光を建物内部に引き入れるかということに神経を使い、自然光を空間のデザイン要素として上手に使っている建物が多いです。私も特注照明器具に窓からの太陽光を反射する板を取り付けて天井を間接的に明るくしたことがあります。照明デザイナーとしては自然光も人工照明と同じような扱いで、空間の中の光の要素の一つとして提案の一部に入れたいという気持ちはいつもあります。また、太陽光発電のようになるべく自然エネルギーを使っていくような提案も照明デザインの中に盛り込んでいくことも責務だと思います。

Q3. 今まで携わった事例のなかで、一番やり辛かったのはどんなプロジェクトでしょうか？また、どんなところが難しい、やり辛いと感じられましたか？

A3. コミュニケーションがうまく取れなかったプロジェクトでしょうか。小さなプロジェクトでも、多くの立場の人がかかわるのがデザインだということを日々感じていますが、照明器具の納まりを確認したいのに該当する図面が作図されていなかったり、知らない間に照明計画を変更されたり、と照明デザインの意図を伝える機会が不十分だと、どんどん実現が難しくなります。結局は人と人との仕事なので、照明デザイナーとしてチーム内で尊重してもらえるように振舞いたいと心がけています。(中村氏)

弊社ではライトアップを設計から施工(電気工事)まで手掛けているため、実際に自分自身で照明器具を動かしたり、光の向きの調整を行ったりしています。そうした施工までは手掛けずに、設計のみを行い、監理として現場の職人さんに指示を出して光の調整を行う場合にやり辛さを感じることがあります。こちらの光の意図がなかなか伝わらないと、自分自身で動かして調整した方が早いと思うことがあります。(原田氏)

日時	2022年8月5日
会場	IALD Japan WEBINAR(オンライン開催)
モデレーター	梅田かおり
パネリスト	中村美寿々、原田武敏、馬渡秀公
主催	IALD Japan



2-7 Event [イベント]

コミュニケーションバー InaBar

「InaBar」はIALD Japan事務所のバーコーナーで行われるユニークな「トーク&バー」。店主である稲葉さんより話題提供者が適宜指名され、毎月第1火曜日(祝祭日、GW、8月は除く)にハイクラスな照明の話題とワインを共に楽しんでいただけます。条件はマイグラスの持参。ソフトドリンクも多種ご用意しておりますのでワインを飲めない方も是非ご来店ください。

2022

第37回：2月1日 『大袈裟ですが、私が世界を知った瞬間×3』 近田玲子さん
今回のテーマの中の×3は何を意味していたのか…。

近田さんが2001年に運用前のアルマ望遠鏡施設見学に行った時の話で、画像と共に展開していきましました。3つの印象的なエピソードを紹介していただき、日本の常識と世界の常識の違いを改めて感じました。

第38回：3月1日 『私が尊敬するデザイナー達 1.亀倉雄策 2.倉俣史朗』
小西武志さん

小西さんがヤマギワ時代に亀倉雄策氏から経営上の相談を受けていたことや、倉俣史朗氏デザインのKスポットは、器具のデザインを依頼した際、スポットライトを分解し骨組みだけにしてこのデザインに決めたことなど。小西さんが二人と実際に出会い、その場に居た時の感じがリアルに伝わる素晴らしいInaBarとなりました。

第39回：4月5日 『みなさん、照明デザインを楽しんでいますか?』
戸恒浩人さん

コロナ禍で世界を取り巻く環境が変わり、LEDの進化がほぼ終わった感がある昨今、来店された皆さんに色々話を聞いてみたいとのことで、戸恒さんから4つの質問が提示されました。最後は惜しくも時間切れとなり、すべての質問まで議論できずに終わりとなりましたが、来店者からはもっと話したいという意見が出ていました。改めてInaBarにお越しいただき続きを開催したいと思っています。

第40回：6月7日 『絶景をつくりあげる人との出会い』 中村穂希さん

長町さんから事務所の若い方を出したいとの積極的な意向を受けて、中村さんに話題提供をお願いしました。中村さんが携わっている天橋立プロジェクトでは、毎年地域の方々と一緒に汗を流し夜景を作っている、というエピソードを話していただきました。

第41回：7月5日 『Fly Me to the Moon』 黒田 茜さん

素敵な月の話とと思っていましたが大違い。実は馬の毛色！馬の毛色で呼び方が14種ある中の一種、クリーム色から淡い黄白色の被毛を持つ馬のことを月毛というそうです。黒田さんは時間があると月毛に跨って余暇をエンジョイしているとのこと。

第42回：9月6日 『音楽と時代・デザイン・トレンドについて
語りませんか…』 水馬弘策さん

1960年ぐらいからの懐かしい洋楽を聞きながら、同時期はやったサイケデリックなグラフィックスを見ながら…。その当時の日本では三波春夫の大阪万博のテーマソング「世界の国からこんにちは」を聴き、小川ローザの「Oh～モウレッツ！」や、アグネス・ラムの画像を見て…、と話題は進み、途中で水馬さんがウクレレの実演もしてくれました。

第43回：10月4日 『The Hero's Journey』 松下美紀さん

旅行の話題かな？と思ったら大違い。サブタイトルは「人生のルール」。8つのルールを紹介していただき、そのルールに沿いながら「照明デザイナーになると決めた」時から、来年で事務所創業35年になる松下さんが歩んできた足跡の話題を提供していただきました。松下さんの話を伺い、あらためて自分のことを思い起こしました。

第44回：11月1日 『NO FIRE NO LIFE』 増田 司さん

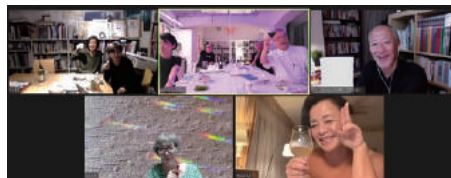
増田さんは休みの日には子供たちと薪割をし、1日の始まりは薪ストーブで火をおこすことから始まり…、という生活をしているとのこと。まさに「NO FIRE NO LIFE」です。増田さんが制作した炎・火のイメージVTRを見ながら、薪ストーブの話など、炎や火のある暮らしはどんな感じなのか、HOTな話題を提供していただきました。

第45回：12月6日 『最近、想うこと』 田中謙太郎さん

田中さんは53歳にしてアンバーという名の事務所を2022年10月に設立されました。「アンバー=琥珀という、年月を経た深い色彩を、光でも表現していきたいという想いから…」アンバーを社名にしたということや、「事務所を設立するにあたり、新たな想いで色々な光環境を体感し、そこでの自然の美しさなどを感じ取り、パワーをもらう…」など、色々と今思っていることを、映像を交えて話していただきました。

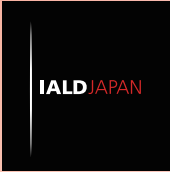
各回の詳しいレポートはIALD JapanのWEBサイトに順次掲載していますので、ぜひご覧ください。

2022年の後半からは久しぶりにInaBar本店をオープンし、対面とオンラインのハイブリッド開催も実現しました。今後も、会員の皆様のコミュニケーションの場としてご来店をお待ちしています。



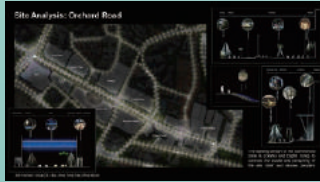
日時	毎月第1火曜日(祝祭日、GW、8月は除く)
場所	IALD Japan バーコーナー、オンライン
参加人数	IALD Japan バーコーナーに入れるだけ (MAX20名)
主催	IALD Japan

ENLIGHTEN ASIA 2023 In Japan



もう WAKUWAKU が止まらない
魅惑のイベントがやってきます!!!
2023年11月中旬開催予定!

2-8



CHAPTER 03

組織運営

3-1	委員会の概要と設置の目的	22
3-2	IALD Japan メンバーリスト	23
3-3	IALD Japan News	26
3-4	About IALD Japan	27
3-5	世界のIALDメンバー	28
3-6	入会案内	30
3-7	第9期に向けて	31
3-8	協賛企業	32

3-1 委員会の概要と設置の目的

協会の事業運営は総会、理事会、5種類の委員会、事務局によって構成されています。理事会は現在10名の理事と2名の監事で構成され、協会運営の方針と事業を決定します。5つの委員会はそれぞれ理事と会員有志によって組織され、年間の活動計画を立案し協会内外での積極的な活動を行います。委員会の代表はそれぞれの委員会によって適時に選出され、その運営に当たります。

日常の運営では、2名の事務局員と本部から任命されたリージョナルコーディネーター1名が会員の活動をサポートしています。

総会

協会運営の総意を諮るための最高決議機関です。事業計画や決算内容を承認し、活動方針に対する意見の交換を行うための定時総会と、会員相互の親睦や研修を目的として開催される臨時総会を運営しています。

理事会

総会で選出された理事と監事、各委員会代表によって構成されています。業務運営委員会と密接に連携し、協会の運営方針を積極的に検討します。ここでは総会に諮るべき議案以外の重要案件を審議し決定します。

業務運営委員会

代表理事、副代表理事、専務理事、財務担当理事、事務局担当で構成し、協会の運営やマネジメント全般を管理し、理事会に諮問すべき事項を検討し、協会運営や財務の健全化を図ります。

研修委員会

会員の意識と能力の向上を図るための会員向け研修と、広く照明業界や社会全般に向けた啓蒙的研修プログラムを実施します。また学生を中心とした教育プログラムを企画し、未来の照明デザイナーを育てます。

広報委員会

協会の広報活動として最も重要な Web サイトやソーシャルメディアを積極的に企画運営しています。さらに年間のさまざまな協会活動を広く広報するために、「IALD Japan アニュアルレポート」を編集発行しています。

メンバーシップ委員会

会員資格は IALD 本部のフェロー、プロフェッショナル、アソシエート、の他に賛助、教育者、ジュニア、学生などの会員を含みます。この委員会は新規会員を募るための広範な活動を行います。さらに会員相互の親睦を深めるための活動も企画実行します。

Enlighten 委員会

2013年より始まった隔年開催の国際大会「Enlighten Asia in Japan」を企画します。協会が開催する最大イベントでもあるため恒常的な企画運営が必要になります。実施には実行委員会が、この企画委員会の方針のもとに隔年ごとに組織されます。

事務局 + リージョナル コーディネーター

事務局員は、会員へのサポート、関連団体との連携、IALD本部（米田シカゴ）との連絡業務、理事会や委員会活動への協力などを行います。

また、IALD本部から任命されたリージョナルコーディネーターは本部会議に出席し、日本と本部との連携を図ります。

代表理事：近田 玲子
副代表理事：東海林 弘靖
副代表理事：武石 正宣
専務理事：松下 美紀

理事：角田 尚法
小西 美穂
永島 和弘
長町 志穂
面出 薫
彌吉 泉美
監事：内木 宏志
松本 浩作

スタッフ
事務局：瀧 ゆう子
清水 安芸

リージョナル
コーディネーター：小西 美穂

3-2 IALD Japan メンバーリスト

[50音順]

F フェロー会員 A アソシエイト会員 E エducーター会員
P プロフェッショナル会員 AF アフィリエイト(賛助)会員

A 青木 千春	株式会社 仁設計	https://www.jindesign.co.jp
A 飯塚 千恵里	飯塚千恵里照明設計事務所	
A 池田 俊一	株式会社 ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
F 石井 幹子	株式会社 石井幹子デザイン事務所	http://www.motoko-ishii.co.jp
A 板倉 厚	Lighting Planners Associates (HK) Ltd.	http://www.lighting.co.jp
A 伊藤 達男	有限会社 伊藤達男照明デザイン研究所	http://itoolight.on.coocan.jp
A 稲葉 裕	株式会社 フォーライツ	
P 岩井 達弥	Lumimedia lab Inc.	http://www.lumimedia.jp
A 上田 夏子	nipek	http://www.nipek.jp
A 内野 春佳	株式会社 ワークテクト	http://www.worktecht.co.jp
A 内原 智史	有限会社 内原智史デザイン事務所	http://www.uclid.co.jp
A 梅田 かおり	ライティングデザインスタジオ LUME	http://www.studiolum.com/
A 大津 敏秀	有限会社 大津電設	
A 大好 真人	大好照明 株式会社	https://www.daisukilight.com
A 岡本 賢	Ripple design	https://ripple-design.jp
A 岡安 泉	株式会社 岡安泉照明設計事務所	https://www.ismidesign.com
P 小野田 行雄	有限会社 イリス・アソシエーツ	http://iris-a.com
A 加賀美 鋭	株式会社 GK設計	http://www.gk-design.co.jp/sekkei
A 角田 尚法	maxview 株式会社	http://www.max-view.jp
A 角館 政英	ぼんぼり光環境計画 株式会社	http://www.bonbori.com
P 金田 篤士	株式会社 ワークテクト	http://www.worktecht.co.jp
P 川端 章彦	dpa lighting consultants Japan LLP	http://www.dpalighting.com
A 木下 美沙	Mist Light Design, LLC	https://mistlightdesign.jp
A 久保 隆文	株式会社 Mantle	http://mantle-d.com
A 窪田 麻里	株式会社 ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
A 黒瀬 俊英		
A 黒田 茜	LIGHTDESIGN INC.	https://www.lightdesign.jp
A 黄 思濛	株式会社 ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
P 小西 武志	ALG (建築照明計画 株式会社)	http://alg.jp
A 小西 美穂	ALG (建築照明計画 株式会社)	http://alg.jp

3-2 IALD Japan メンバーリスト [50音順]

A	小山 憲太郎	コヤマケンタロウデザイン事務所	http://koyamadesign.jp
P	澤田 隆一	有限会社 サワダライティングデザイン&アナリシス	http://slda.co.jp
P	東海林 弘靖	LIGHTDESIGN INC.	https://www.lightdesign.jp
AF	水馬 弘策	D.C.Works	
A	菅原 千稲	フィラメント	http://filament.main.jp
A	高岡 真依子	LEM空間工房	http://www.lem-design.com
A	高山 直樹	株式会社 松下美紀照明設計事務所	http://www.mikilight.com
P	武石 正宣	ICE都市環境照明研究所	http://www.ice-pick.jp
A	田中 圭吾	株式会社 ライトモーメント	http://lightmoment.jp
A	田中 謙太郎	Amber Co., Ltd.	
A	田中 康一	LIGHTLINKS INTERNATIONAL LIMITED	http://www.lightlinksltd.com
A	田中 裕美子	ゾネ	http://www.sonnelds.com
A	垂水 茂喜	有限会社 レイデザイン	http://www.raydesign.jp
F	近田 玲子	株式会社 近田玲子デザイン事務所	http://www.chikada-design.com
A	東宮 洋美	株式会社 ライトスケープ・デザイン・オフィス	http://www.ldo.co.jp
A	戸恒 浩人	シリウスライティングオフィス	http://www.sirius-ltg.com
A	富田 泰行	トミタ・ライティングデザイン・オフィス	http://www.tldo.jp
P	内木 宏志	株式会社 ナイキデザイン事務所	http://naikidesign.com
AF	中島 一秋	ライティングラボラトリー	http://lightinglaboratory.co.jp
A	永島 和弘	合同会社 チップス	http://www.chipsss.com
A	中島 龍興	中島龍興照明デザイン研究所	http://www.ne.jp/asahi/nakajima/lighting
A	永田 恵美子	ku:kan light	
A	中谷 太郎	*CYPHER	http://www.cypher-d.com
A	永津 努	株式会社 フェノメノンライティングデザインオフィス	http://phenon.jp
A	長町 志穂	LEM空間工房	http://www.lem-design.com
A	中村 穂希	LEM空間工房	http://www.lem-design.com
A	中村 美寿々	株式会社 ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
A	中村 元彦	株式会社 松下美紀照明設計事務所	http://www.mikilight.com
A	野澤 寿江	株式会社 近田玲子デザイン事務所	http://www.chikada-design.com
A	バク・ホンジュ	株式会社 松下美紀照明設計事務所	http://www.mikilight.com
A	橋本 八栄子	MYNA Design & Craft Pte Ltd	https://www.myna.com.sg

F フェロー会員
 A アソシエイト会員
 E エデュケーター会員
P プロフェッショナル会員
 AF アフィリエイト(賛助)会員

A 服部 祐介	Lighting Planners Associates (S) Pte Ltd	http://www.lighting.co.jp
E 馬場 美次	馬場美次デザイン室	http://www.yoshiji.com
A 早川 亜紀	灯デザイン	http://www.toh-design.com
A 原田 武敏	焰光景デザイン	http://www.homura-lsd.com
A 福多 佳子	中島龍興照明デザイン研究所	http://www.ne.jp/asahi/nakajima/lighting
A 藤井 茂紀	nipek	http://www.nipek.jp
A 本多 由実	株式会社 ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
A 真壁 智香	株式会社 ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
A 眞崎 雅子	有限会社 スタイルマテック	http://www.style-matec.co.jp
A 増田 司	マスダデザイン	
P 松下 美紀	株式会社 松下美紀照明設計事務所	http://www.mikilight.com
A 松本 浩作	有限会社 スタイルマテック	http://www.style-matec.co.jp
A 馬渡 秀公	マワタリデザイン	
A 村岡 治彦	村岡治彦デザイン事務所	http://www.muraokadesign.com
A 村岡 桃子	株式会社 ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
A 村角 リーダー千亜希	スパンコール	http://www.spangle.jp
A 目黒 朋美	トモルデザイン・メグロ 株式会社	http://www.tomoru-design.co.jp
F 面出 薫	株式会社 ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
P 森 秀人	株式会社 ライティングM	http://www.lighting-m.co.jp
A 八木 弘樹	有限会社 内原智史デザイン事務所	http://www.uclid.co.jp
A 安田 真弓	Speirs + Major KK co-lab Shibuya Cast.	
A 山下 裕子	有限会社 ワイ・ツー・ライティングデザイン	
A 山本 幹根	株式会社 ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
A 彌吉 泉美	株式会社 彌吉泉美照明デザイン	http://www.izu-lighting.com
E 吉澤 望	東京理科大学 理工学部 建築学科	
A 吉野 弘恵	アカリ・アンド・デザイン	http://www.akari-d.com
A 吉村 美子	LIM LIGHTING DESIGN	
A 林 虎	株式会社 ライティング プランナーズ アソシエーツ	http://www.lighting.co.jp
A 綿貫 真由美	有限会社 内原智史デザイン事務所	http://www.uclid.co.jp

(2022年12月末現在)

3-3 IALD Japan News

**Enlighten Asia 2021
in Japan**
特設サイトを開設

Enlighten Asia 2021 in Japanの特設サイトをIALD japanのWebサイトに開設いたしました。イベント期間中に開催されたセミナーのレポートが掲載されておりますので是非ご覧ください。

**Enlighten Asia 2023
in Japan**
企画推進中

初の単独開催から2年、2023年11月にEnlighten Asia 2023を開催することが決定いたしました。

今回も、様々な視点から光・照明に迫る良質なコンテンツを取り揃え、皆様と共にワクワクしながら光についてより深く探求できるイベントになるよう企画を進めております。お楽しみに！

**リアルイベント徐々に
再開**

2023年に入り、各イベントのリアル開催を徐々に復活させております。コロナ禍で学んだオンラインイベントのメリットも活かしつつ、遠方の方にも気軽に参加いただけるようハイブリッド方式での開催を続けております。今後のイベントにご期待ください。

3-4 About IALD Japan

IALD リージョナル
コーディネーター

IALDには、本部のある米国シカゴを中心に35以上のリージョン(地区)とチャプター(支部)があり、それぞれのコーディネーターが地域の活動が活発に行われるよう取り組んでいます。現在アジアパシフィックでは、日本、中国、東南アジア、インド、オーストラリア、ニュージーランドをそれぞれのコーディネーターが担当しています。特に日本は米国外で最大の会員数を有し、現地法人化されたこともあり、その役割を期待されています。日本のリージョナルコーディネーターは、ボランティアという立場で、日本における会員活動のサポート、シカゴ本部への活動報告、本部からの情報を日本の会員へ伝えるなどの役割を担い、日本での活動が円滑に進むようIALD Japan事務局と連携を取りながら活動しています。

IALD Japan
事務局

担当スタッフが、IALD Japanリージョン・リージョナルコーディネーターと連携しながらIALD Japanの事務局業務を行っています。協会の目的である業界の発展に寄与するための活動サポート拠点として、以下の業務を行っています。

-
1. 国際照明デザイナーズ協会(IALD)本部とのやりとり
 2. 会員サポート
 3. イベント開催に関する取りまとめや諸手続き
 4. その他当協会運営に関するさまざまな業務

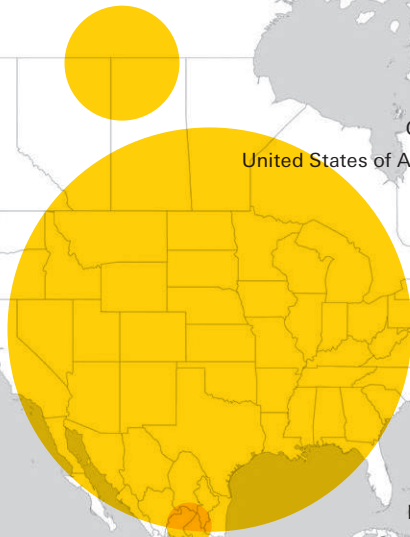
会員および外部の方からのお問合せはこちらで承っていますので、各種資料、会員登録、イベント、その他本協会に関するご質問はメール、電話にてお気軽にお問合せください。

業務時間：10：00～17：00（月～金）土日祝日は休み

会員の皆様にはミーティングやコミュニケーションの場として開放しておりますのでお気軽にお立ち寄りください。

※crafTecのオープン時間等が変更される場合がございますので、お越しの際は事前にご連絡ください。

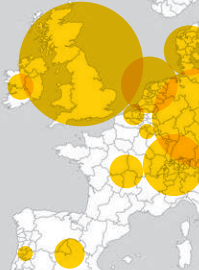
一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会
〒141-0022 東京都品川区東五反田5-25-19 東京デザインセンター5階 crafTec内
tel：03-6277-1764 fax：03-6277-1769
E-mail：info@ialdjapan.jp <https://ialdjapan.jp>



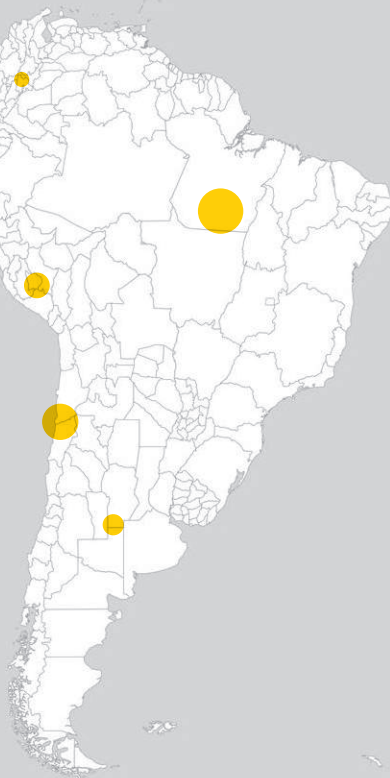
Canada
United States of America

Mexico
Guatemala
Costa Rica

Ireland
Iceland
United Kingdom
Netherlands
Belgium
Luxembourg
Germany
Austria
Liechtenstein
France
Spain
Portugal
Switzerland
Italy



Columbia
Ecuador
Peru
Brazil
Chile
Argentina



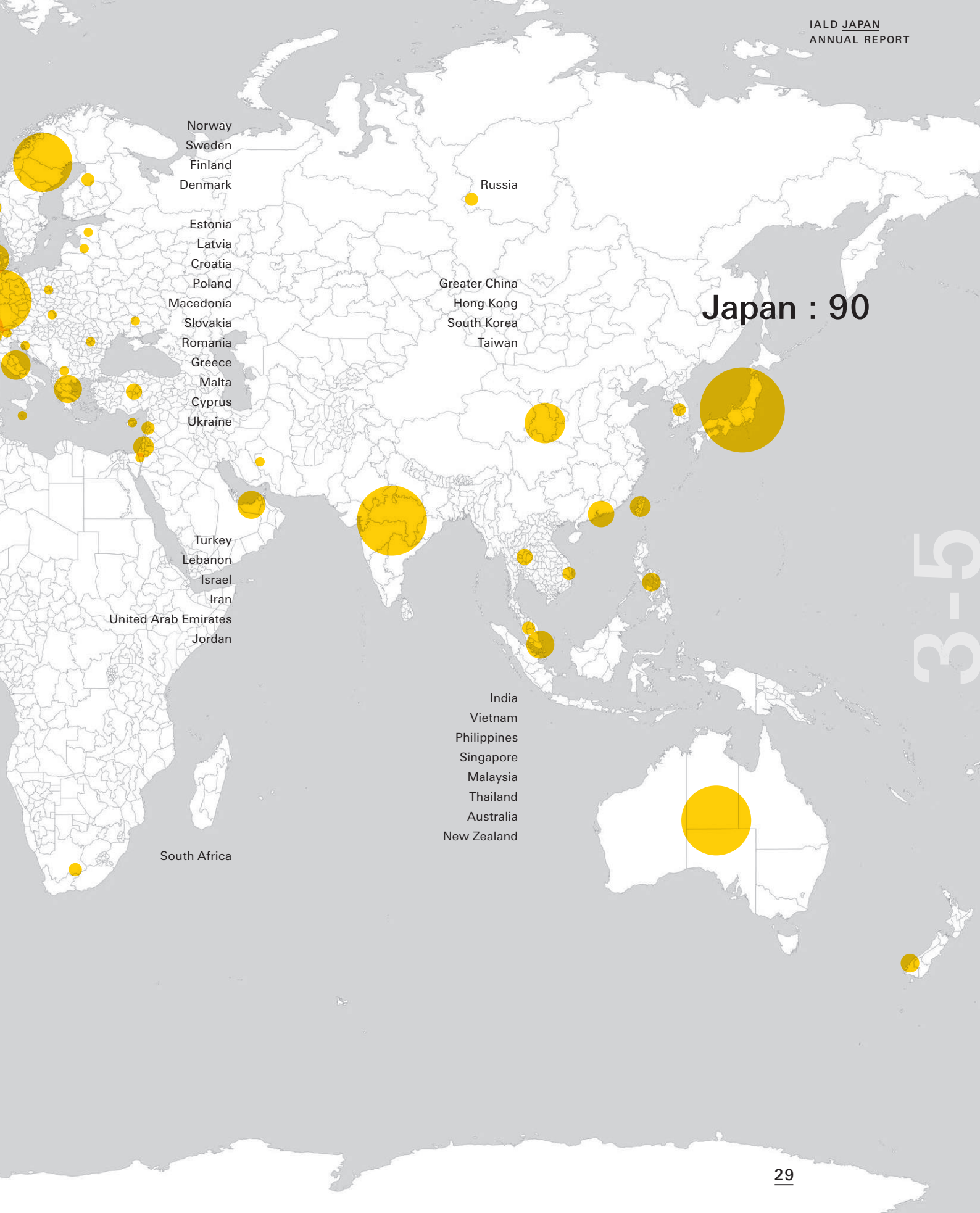
IALD

3-5 世界のIALDメンバー

世界で活動するIALDのメンバーをご紹介します。各国の活動は「ENLIGHTEN AMERICAS」「ENLIGHTEN EUROPE」「ENLIGHTEN ASIA」のセミナーやさまざまなセッションによって情報交換が行われています。

日本は一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会の躍進によって、世界で2番目の会員数を誇る活動国となりました。

※2022年12月末日現在



Norway
Sweden
Finland
Denmark

Estonia
Latvia
Croatia
Poland
Macedonia
Slovakia
Romania
Greece
Malta
Cyprus
Ukraine

Russia

Greater China
Hong Kong
South Korea
Taiwan

Japan : 90

Turkey
Lebanon
Israel
Iran
United Arab Emirates
Jordan

India
Vietnam
Philippines
Singapore
Malaysia
Thailand
Australia
New Zealand

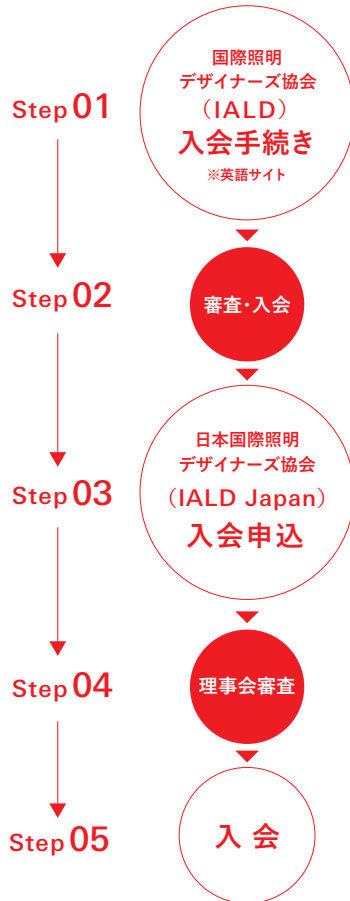
South Africa

3-5

3-6 入会案内

一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会 (IALD Japan) では、新規の会員を随時募集しています。

入会までの手順



入会特典

入会された会員には、以下のような特典があります。

- ・ 国際的な展示会への参加
- ・ 協会が主催するシンポジウムやセミナー等への参加資格
- ・ 照明デザインに関するさまざまな情報の共有
- ・ その他 照明デザイナーとしての業務に関するサポート

会員種別

会員には以下の種別があります。

- ・ フェロー会員
- ・ アフィリエイト(賛助)会員
- ・ プロフェッショナル会員
- ・ ジュニアアソシエイト会員
- ・ アソシエイト会員
- ・ エducーター会員
- ・ 退職会員
- ・ 学生会員
- ・ 名誉会員

会員資格

会員資格を得るには、米国の国際照明デザイナーズ協会 (IALD) に事前に加入する必要があります。

- ・ 入会時に国際照明デザイナーズ協会 (IALD) の会員資格を有していること
- ・ 日本国籍を有する個人、または日本に在住する個人であること

詳しい手続きにつきましては、一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会 事務局までお問い合わせください。

一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会
〒141-0022 東京都品川区東五反田5-25-19 東京デザインセンター 5階 crafTec内
tel: 03-6277-1764 fax: 03-6277-1769
E-mail: info@ialdjapan.jp https://ialdjapan.jp

3-7 第9期に向けて

第9期は、長かったコロナ禍が収束に近づき、オンライン、リアルも含めたハイブリッドなイベントやミーティングを開催して、第10期のEnlighten Asia開催に向け前進できることを願っています。

皆様も奮ってご参加ください。

一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会

副代表理事 武石 正宣 Masanobu Takeishi

第9期 活動計画

2022年

定時総会

第1回理事会

第2回理事会

WEBINAR

コミュニケーションバー InaBar

2023年

第1回 臨時総会

第2回 臨時総会

第3回 理事会

WEBINAR

学生向けセミナー

コミュニケーションバー InaBar

3-8 協賛企業

IALD Japanの2022年の活動は、
下記の34社にご協賛いただき行われました。

Diamond

株式会社 遠藤照明
コイズミ照明 株式会社
大光電機 株式会社
パナソニック 株式会社 エレクトリックワークス社



Platinum

岩崎電気 株式会社
ウシオライティング 株式会社
株式会社 KKDC-Japan
DNライティング 株式会社
株式会社 ルーチ



Gold

スタンレー電気 株式会社
株式会社 ネオ・ストラク
株式会社 モデュレックス
株式会社 ライティング創
ルートロンアスカ 株式会社



Silver

エイテックス 株式会社
SD Lighting 株式会社
カラーキネティクス・ジャパン 株式会社
KOYA JAPAN Lighting 株式会社
株式会社 電産企画
東芝ライテック 株式会社
トキ・コーポレーション 株式会社
トライト 株式会社
ナカ工業 株式会社
株式会社 FEELUX JAPAN
マーチンプロフェッショナルジャパン 株式会社
三菱電機照明 株式会社
株式会社 森川製作所
株式会社 YAMAGIWA
山田照明 株式会社
ライトアンドリヒト 株式会社
株式会社 LIXIL
株式会社 Linea Light
ルイスポールセンジャパン 株式会社
株式会社 ルーメンジャパン



[50音順]



Japan International
Association of
Lighting Designers

2022

IALD JAPAN

ANNUAL REPORT

Vol.08

一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会
アニュアルレポート
[2022年 1月 — 2022年12月]

[発行日] 2023年2月19日
[企画・監修・発行] 一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会
[編集] IALD Japan 広報委員会
[編集協力・デザイン] 株式会社 大伸社ディライト

[発行・発行所] 一般社団法人 日本国際照明デザイナーズ協会
〒141-0022 東京都品川区東五反田5-25-19
東京デザインセンター5階 crafTec内
tel:03-6277-1764 fax:03-6277-1769
E-mail: info@ialdjapan.jp
https://ialdjapan.jp



◀ IALD Japan のWEBサイトを
ご覧いただけます。

